

第22回日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会

Cグループリーグ1回戦		天候	晴	風	弱	ピッチの状態	良
<div>SSSジュニアユース</div> <div>0</div> <div><div>0</div><div>—</div><div>0</div><div>0</div><div>—</div><div>0</div></div> <div>0</div> <div>大分トリニータ</div>							
シ ス テ ム				シ ス テ ム			
4-4-2				3-3-4			
<p>猛暑が襲っている今年のJヴィレッジ。今日の1ゲーム目から飲水タイムを導入している。この2〜3日札幌も暑かったので、そんなに気にはしていないと言っていた岩越監督。北海道大会決勝の勢いをそのまま持ち込みたいSSSジュニアユース、円陣を組み気合充分。大分トリニータのキックオフでゲームが始まった。序盤はディフェンシブなフォーメーションで相手の出方を伺う。もちろん無駄な体力の消耗を防ぐ為にも、禹相皓を起点にカウンター攻撃を仕掛けたいところだ。一方の大分トリニータはサイドのスペースにボールを入れて攻め込むがシュートまではいけない。10分過ぎ、立て続けにコーナーキックを取られるが頑張るSSS。暑さのせいもあるが、ボールに寄せない選手に岩越監督からゲキが飛ぶ。SSS最初のシュートは16分。禹から伊藤へとつなぎ、クロスに埜瀬が飛び込みスルー、フォアサイドに遅れながらも走り込んでいた吉田がシュートを放つもジャストミートしない。飲水タイムを取った18分過ぎからSSSの動きが良くなってくる。前線からのプレスも効き始め、インターセプトから突破のパスを送るが精度が悪くチャンスとはならない。24分トリニータは左からのクロスに合わせ、フリーでヘディングシュートを打つもGK稲垣の真正面で、SSSピンチを凌ぐ。27分にもフリーでシュートを打たれる場面があったが、ディフェンス必死の寄せでゴールを割らせない。前半終了間際、中盤の競り合いから、左サイドでパスをつなぎ、禹がシュートを打つも、トリニータディフェンスの体に当たり、ゴールへは飛ばない。前半はほぼ互角に戦っていたが、フィニッシュまで持って行ったトリニータがやや優勢だったか。</p> <p>SSSはメンバー交代なしで後半が始まった。流れを変えたいSSSは43分、動きが鈍くなってきた吉田に替え、山田を投入。一進一退のゲームが続く中、44分SSSコーナーキックのチャンスから、逆襲を受け、一度はカットしてビルトアップを試みるが、集中力を欠いたディフェンスラインの不用意なパスからピンチを招くが、オフサイドに救われる。52分禹相皓へ中央突破のパスが出る。ドリブルで仕掛け、ディフェンスを上手くかわしシュートを打つが、僅かにトリニータGKの手に当たり先取点を逃す。逆に55分、56分とピンチが続くSSS、特にコーナーキックからのボレーシュートは低い弾道となり、GK稲垣の股間へ飛び、抜けてと思ったが辛うじて死守。得点を与えない。禹相皓の強引なドリブルは、トリニータに驚異を与えた。しかしながら1点が奪えない。65分曾川を入れて、左サイドから崩していきたいところだが、最後のパスが甘くチャンスを作ることが出来ない。68分田中が中央からシュートを打つが、ポスト1mくらいはずす。ロスタイムに入り、疲れから集中力を欠き、ショートコーナーに誰も反応せず、中央に切り込まれシュートを打たれ、危なかったがそのワンプレーでタイムアップのホイッスルが鳴った。今日唯一の引き分けゲームで、勝ち点1を取ったSSS。明日は鹿島アントラーズに3-1で快勝したアルビレックス新潟戦、決メント進出のためにはこの一戦が鍵となるだろう。</p>							
戦評 加藤 孝俊							